

みんなで作った「百島みんなの家」

百島みんなの家は、2回の住民説明会・意見交換会の後、3回のワークショップを実施し、地域の皆さんと一緒に作り上げました。

平成29年3月19日(日)第1回ワークショップ 「現場見学会・上棟イベント」

建物の骨組みが出来上がり、現場の見学会を行いました。住民、関係者ら約250人が参加し、実際に建物の構造を見ながら、設計事務所や施工業者から説明を受けました。



平成29年6月11日(日) 第2回ワークショップ 「土壁塗り体験」

建物の工事が進む中、左官屋さんの指導の下、地元小中学校の子どもたちや住民、約50人が参加し、百島の土を使った土壁塗りを行いました。



参加者は、楽しみながら熱心に取り組む、一部の壁に参加者の手形を記念に残しました。



平成29年9月9日(土) 第3回ワークショップ「内覧会」

設計者である伊東豊雄さんが百島に来て、建物の構造などについて説明しました。参加した住民、関係者、建築ファンなど約150人が、建築の苦労話などを聞き、今後の利活用に思いを巡らせました。



設計者の紹介



百島支所庁舎は、支所と郵便局の複合施設としてプロポーザルが行われましたが、設計者として選ばれた後、日常的に島の方々が集うことができる場所になるよう、「みんなの家」という呼称を付けました。

丸い形は、敷地が道路に面してカーブしているのにそれに馴染むよう、こうした形にしました。

中には小さな遊び場や談話ができる場所、さらにキッチンも備えているので、子どもや保護者、お年寄りまでが憩うことのできる空間になっています。また20~30人程度の小さなコンサートなど、イベントにも対応できます。

内部の形状は、唐傘のように中央に向かって垂木がのびており、みんなが一つになるという「みんなの家」の意義を象徴した形になっています。

壁は内外とも左官壁にしており、これは島の人達にも参加してもらいみんなで塗りました。

それによって、自分達の家だという想いを一層強くしてもらったように思います。

伊東豊雄

伊東豊雄 建築家

1941年生まれ。1965年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」、「台中国家歌劇院」(台湾)など。日本建築学会賞、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、プリツカー建築賞、UIAゴールドメダルなど受賞。東日本大震災後、仮設住宅における住民の憩いの場として提案した「みんなの家」は、現在までに16軒完成。昨年の熊本地震では県主導のもと「みんなの家」のある仮設住宅づくりが進められ、各地に計90棟近くが整備されている。2011年に私塾「伊東建築塾」を設立。これからのまちや建築のあり方を考える場として様々な活動を行っている。また、自身のミュージアムが建つ愛媛県今治市大三島において、塾生有志や地域の人々とともに継続的なまちづくりの活動に取り組んでいる。

